

第54回 令和7年7月1日（火）

「危なかった話。」

もうすぐ梅雨が明けて真夏がやってきます。夏と言えば海を思い浮かべる人も多いと思います。

私も若いころは良く友達と海水浴に行きました。基本的に泳ぐのは嫌いではないので沖のほうまで行くことも多かったです。

あるときいつもの海で泳いでいると、なぜかいつの間にかものすごく海岸が遠くなっていました。そんなに泳いだつもりもないのにおかしいなと思いつつ、海岸に向かってクロールをしてある程度泳いだところで岸を見ると、さらに遠くなっていました。

海岸で警備員の方が「こっちに戻れ！」と怒鳴っているのが聞こえます。戻ろうとしているのですがいくら泳いでも岸に近づくことができません。

これが「離岸流」という波で、一度これに嵌ってしまうと知らず知らずのうちにどんどん岸から遠ざかってしまうのです。自分では一生懸命泳いでいるつもりでも、波の力にはなかなか逆らうことができません。

泳ぎ疲れてもうだめだと思ったとき、ライフセーバーの方に救助されました。後でものすごく怒られましたが、別に沖に出ようとしたわけでもないのに気がつくに戻れなくなっていたので、まるでキツネにつままれたような不思議な気分でした。

川の流れは膝より上になるともう自分ではコントロールできなくなります。昔キャンプに来ていた集団が玄倉川という河原で川に流されてしまった事故がありました。父親が娘を背負って懸命に川でふんばっていましたが、やがて流されて犠牲になりました。

これから水の事故が多くなる季節です。私の知っている方も命を落としました。また大雨が増える季節でもあるので、川の水量が少なくても上流で雨が降ると一気に水かさが増すこともあります。

水というのは表面から見ると中に入るのは表情が全く違います。水は怖いものだということを常に意識してください。毎年水の事故で多くの人の命が失われています。みなさんも他人のことだと思わないように、くれぐれも注意してください。